

広報

ただみ

8

2018 月号

No. 579

平成30年8月10日



今月の表紙

今月の表紙は、7月8日に行われた「福島県消防操法南会津地方大会」の小型ポンプ操法の部で、指揮者が火点に向かって勢いよく放水する様子です。技術とタイムを競うこの競技は、「よしっ!」の掛け声と同時に、選手が一斉にホース、小型ポンプ、吸管を連携して操り、最短時間で火点に向かって一気に放水します。選手の皆さんは、素晴らしい動作と連携を披露しました。

(関連記事:P10~11)

《特集》

「戊辰 150 年」只見と戊辰戦争…… 2～9

「福島県消防操法南会津地方大会」… 10～11

《News&flash》…………… 12～13

《町の話》…………… 14～17



特集

奥会津只見戊辰五〇周年記念事業実行委員会が伝える

「戊辰150年」只見と戊辰戦争

「只見と戊辰戦争」①

避難民の受入れ

慶応4年(1868)1月、

京都の鳥羽伏見の戦いで始まった戊辰戦争。この奥会津地方一帯においても激しい戦闘が繰り広げられました。この戦争は、薩摩と長州を中心とする反幕府側の西軍と徳川幕府側の東軍との戦いでした。戦場は次第に関東、越後、東北と北上していき、5月には長岡戦争、8月に入ると会津戦争に突入します。5月19日、長岡城が落城すると、長岡藩主一行総勢約380人が会津に亡命するため八十里越を越えて、5月21日に只見へ到着しました。八十里越は会津と越後を結ぶ長大な峠で、丸1日以上かかる険阻な山越えの道です。藩主の牧野忠訓は只見字原の名主宅に、姫君さまは原の新国慎三郎宅に、老公の牧野忠恭は只見字沖の名主宅に宿泊しました。原の名主宅の分

戊辰150周年

只見町の戊辰戦争を伝える――

今年150周年を迎えた戊辰戦争―。

戊辰戦争当時、只見では越後長岡藩からの多数の避難者を受け入れた歴史があります。八十里越を越えてきた避難者はその数1万5千人とも2万5千人とも言われています。その中で最も語り継がれている人物が長岡藩家老「河井継之助」です。

只見町では、昨年から戊辰戦争150年に向けて「奥会津只見戊辰一五〇周年記念事業実行委員会」を設立し、只見町における戊辰戦争の象徴的人物「河井継之助」を中心に町の歴史文化を発信しています。

本号では、只見町における戊辰戦争の歴史と「奥会津只見戊辰一五〇周年記念事業実行委員会」についてご紹介いたします。

家には、今でも姫君が使用した布団が保存されています。藩主一行は只見に5日間滞在したのち若松へと出発しました。

7月29日、長岡城が再落城すると、東軍の引き揚げ兵や長岡藩士の家族が八十里越を越えて只見に入ってきました。その数は8月2日から10日までの間で2万5千人ほどにも達し、只見の地は避難者であふれ返り、混乱を極めました。折から八十里越は長雨が続き、泥だらけの道はよくすべりました。この峠を越えれば、どうしても数日間は見見に滞在せざるを得ません。当時の只見地方は田子倉村から塩沢村まで8か村、総戸数292戸の寒村でしたが、ここへ大挙して避難してきた人々であふれたのです。30戸の櫛戸村には508名が10日間ほど宿泊した記録が残っています。



▲矢沢家の一部を移築した河井継之助記念館にある継之助の終焉の間



▲河井継之助記念館では戊辰150周年特別展として丹羽族を紹介したコーナーや会津藩・白虎隊士の展示コーナーなどが設けられています

―只見と戊辰戦争②― 丹羽族の自刃―

避難民が只見に来たことにより、緊急に必要なものは食糧でした。兵士などから送り返されていましたが、当時は秋の収穫前で、

さらには長雨の影響により只見川で洪水が起き、若松からの救援米が滞ったため、避難民の食糧は圧倒的に不足していました。このとき、会津と越後境の八十里越と六十里越の防備のため、会津藩から野尻代官に任命されたのが丹羽族でした。

丹羽族は避難者の食糧調達や受入れの任務にあたり、自らも食糧調達に東奔西走します。しかし、寒村での食糧調達には限界があり、難民を賄うほどの食糧はなかなか集まりませんでした。そして、極度の食糧危機に陥り、餓死する者まで出るほどでした。

8月5日には、深手を負った長岡藩家老の河井継之助が只見に到着します。叶津口留番所で丹羽族から会津の戦況などを聞いたのち、目明し清吉の家に宿泊しました。

くしくも、河井継之助が只見に到着した8月5日の深夜、とうとう万策尽きた丹羽族は、食糧調達や食糧

危機の責任をとって自害してしまいます。その時の心情を丹羽族は、遺書で次のようにしたためています。

―自分は、兵糧総督として、その責任を果たせず、友藩は勿論、殿に対し誠に申し訳が立たない。この危機にあたり、自分が責任をとり自害すれば、友藩に対し、申し訳も立つ。また、後を託す部下達の食糧対策に村人の理解も得易いだろう。自害は決して責任逃れでも気が狂った訳でもない。この危機を脱するために、自分の果たし得る、唯一の責任の取り方である。後の事は頼む。―

悲報を知った只見の人々は、丹羽族の忠義に心を打たれ、各家の蔵をも開け、わずかな食糧や蓄えを差し出し、長岡の人々を救うことができたのです。

―只見と戊辰戦争③― 戊辰戦争が結ぶ絆―

8月12日、河井継之助は傷の治療のため若松に向けて出発しますが、傷の状態



▲目黒竹市家（只見字田中）が現在も守る長岡藩士石垣龍三郎の墓



▲只見代官所跡で丹羽族自刃の家（鈴木峯生宅／只見字上町）。現存する丹羽族が自害した部屋で鈴木家が大切に保存しています



▲河井継之助が逗留した目明し清吉の屋敷跡（五十嵐昭一宅／只見字塚前）



▲只見字原の旧名主宅の分家には、長岡藩主が使用した3組の布団が大切に保存されています



▲長岡藩・姫君が5日間宿所した場所（新国孝男宅／只見字原）

が悪化したため塩沢の医者、矢沢宗篤宅に投宿し、8月16日に亡くなりました（享年42歳）。村人はその死を悼み、残骨を拾い集めて塩沢の医王寺に墓を建てました。会津戦争は9月22日に鶴ヶ城の落城によって終結します。しかし、只見地方ではその後も戦争が続きました。

9月23日、西軍（新政府軍）の加賀藩士・森川余所之助は、入小屋の戦い（現南会津町東）で負傷し、21歳の若さで切腹し果てました。森川余所之助は小林の新福寺境内に埋葬され、官修墳墓として祭られました。9月24日の滝原の戦い（現只見町坂田）では東軍、西軍双方に死者ができました。西軍の加賀藩士・太田治右衛門が戦死し、布沢の龍泉寺に墓地があります（享年27歳）。只見字沼田原では、只見・叶津の戦いがあり、東軍が西軍の築いた只見・叶津間の陣地を襲撃し、西軍を八十里越や大塩方面に追いやりました。この戦いがあったのは9月25日のこと、会津戦争最後の戦いの場所となりました。

只見字沖の墓地には、長岡藩士の石垣龍三郎の墓があります。現在でも只見の人が墓を大切に守っています。さらに、只見には長岡藩士の子どもを預かり育て、長岡藩士の家系を引く家もあります。

只見字寺にある長福寺は、東軍・西軍の宿舎として使用されたもので、当時のままの姿をとどめています。戊辰戦争で活躍した元白虎隊士の篠沢寅之助は明治6（1873）年、只見小学校教員として半年間赴任しましたが、その折、家族で逗留した家があります。

只見の人々は、長岡戦争での避難者を助け、河井継之助の墓を守りながら現在でも墓前祭を行っています。そして、只見と長岡は多くの悲劇を生んだ戊辰戦争という深い縁で結ばれているといえます。



▲今年2月の只見ふるさとの雪まつりで河井継之助に扮し歴史講座を行う目黒信さん



▲河井継之助記念館に飾られている河井継之助の等身大パネル



▲昨年9月に記念事業「継之助ウォーク」を開催。叶津番所の三瓶こずえさんから説明を受ける新潟県長岡市の皆さん



▲戊辰戦争当時の解説や史跡めぐりを紹介したガイドブック



▲史跡に設置された標柱で説明文やQRコードが記されている



▲当時最新鋭のガトリング砲を使っていた河井継之助

― 実行委員会の設立①
史跡標柱の設置 ―

平成29年2月3日、町では町内の歴史研究者や観光団体などと「奥会津只見戊辰一五〇周年記念事業実行委員会」を設立しました。

これは、戊辰150周年の節目を機に、河井継之助を中心とした只見の歴史を「語り継いでいく」ために設立されたもので、昨年度からポスター、のぼりなどによる啓発活動や戊辰史跡巡りツアーなどの記念事業を実施しています。

昨年度は、町内の戊辰関連史跡を紹介するガイドマップ「只見町戊辰戦争史跡めぐり」を作成しました。このガイドマップは、河井継之助の逗留地跡や丹羽族が自害した代官所跡、長岡藩士の墓など只見町に残る戊辰戦争ゆかりの場所が詳しく紹介されています。これに併せて、ゆかりの史跡16カ所に標柱を設置し、ガイドマップを見ながら史跡巡りができるようにしました。

— interview —



鈴木 岑生さん
(只見)

只見代官所跡 丹羽族の自刃の家 —



私は茨城県の出身で、20代の頃に田子倉鉾山の仕事で只見町へやってきました。その後、この家に婿として入り、丹羽族の自刃の家だと知りました。自害した場所は、この家の座敷だと聞いています(右上写真)。

数年前には、河井継之助を紹介した新潟県のテレビ番組の収録で、この家に林修さんがやってきました。これまで注目されていなかった丹羽族について紹介され、大変驚きました。

私も河井継之助が通ってきた八十里越に関心があったため、八十里越通り抜けバスツアーに参加してきました。本当にすごい山の中に道路がつくられており、河井継之助も八十里越を越える際は大変苦勞なさったのだろうと感じました。

実行委員会が制作したガイドブックには、この家のことも紹介されています。多くの方々に知っていただくきっかけになればと思っています。

長岡藩士・石垣龍三郎の墓 現在も墓守をする目黒竹市家 —

当時、私の家は「山田屋」という旅館だったため、新潟の人も良く泊まりに来ていました。

この墓は、私の祖父の時代から守っており、父からこの墓には長岡の人が眠っているのだと聞きました。墓は大雪の度に倒れてしまい大変なこともあります。祖父の時代から守ってきたこの墓を今も守っています。

なぜ、ここに長岡藩士・石垣龍三郎が埋葬されたのかは分かりませんが、墓石は質もよく、今

も刻まれた文字がしっかりと見ることが出来ます。この墓を見る限り、石垣龍三郎は立派な人物だったのだと思います。時々、新潟の方から墓を見せてほしいと言われることもあります。

今回、ガイドブックで紹介されたことで、多くの方々に見てもらいたいと思っています。そして、これから先も、祖父の時代から守ってきたこの墓を守り続けていきたいと考えています。

— interview —



目黒 竹市さん
フミ子さん
(只見)

た。各標柱には史跡の説明文とQRコードが記されており、携帯電話やスマートフォンなどで読み取ることにより、簡単な情報をその場で知ることができます。

このガイドマップは、町内に全戸配布したほか、只見・川口・南会津の各県立高校や新潟県長岡市の河井継之助記念館などに配りました。ガイドマップの作成にあたり飯塚恒夫会長は「歴史を語り継いでいくためにも、しるしを残しておくべきと考えた」と話しています。

— 実行委員会の設立② —

平成30年度の活動

実行委員会では、戊辰150年の節目の年を迎える今年度、様々な記念事業を展開していきます。

河井継之助記念館では、戊辰一五〇周年特別展示を行っています。戊辰戦争時に只見で兵糧調達に奔走した会津藩代官・丹羽族のコーナーを設け、年表パネルなどで当時の只見の関わりを

— interview —



五十嵐 昭一さん
チエコさん
(只見)

目明し清吉の屋敷跡 河井継之助の逗留地



河井継之助が逗留したのは、現在の家の裏側に建っていた屋敷です（右上写真）。この写真は家を壊す際、私の息子が撮ってくれたものです。この辺には家がほとんどなかったため、継之助御一行は目明しを頼りに来られたのだと思います。

継之助が来られた時期は8月だったため、養蚕が忙しくとても大変だったと聞いています。継之助が滞在した1週間、御一行は家の上座敷に泊まり、自分たちは1段下の

部屋で生活していました。継之助がいる上座敷には付き人や医者が行ったり来たりするだけで、自分たちは入ることもできなかったそうです。何もしてあげることができず、家を明け渡したような気持ちだったのですが、とにかく大変だったという話です。

家の墓には目明し清吉の名が刻まれており、私が10代目となります。当時、この辺りには目明し清吉が関係する家が2軒あり、親分と子分といった間柄のようでした。

只見の歴史を 語り継ぐために —



只見は地理的に越後と会津を結ぶ通過点であったため、中心地とは違った役割や苦労がありました。これらの歴史を語り継いでいくためには、今回の戊辰戦争150年は良い機会であったと考えています。只見の人も戊辰戦争に参加をしています。それが山内^{やまのうちのだいがく}大学隊です。この隊は、金山・只見の農民で編成され、八十里越の防備が主な任務でした。しかし、手薄になった越後の国境線の防備のため、遠征した小出島の戦いでは犠牲者をだし、八十里越を越えて逃げてきました。会津の敗色が濃くなる8月末に

は、只見から会津兵が若松に引き揚げ、その後を追って西軍2,000人が只見に進軍してきました。只見の人が大変だったのは、東軍だけの受け入れではなく、その後進軍してきた西軍も受け入れていることです。心情的には辛いと思いますが、「村を守る」という強い決意から西軍を受け入れたのでしょうか。また、山内隊も戦国時代から八十里越・六十里越は自分たちが守るという強い意志がありました。これを見ると、只見の人は武士の心を持ち、困った人は助けるという気質と秩序を持っているのだと感じています。

— interview —



奥会津只見戊辰150周年
記念事業実行委員会
(会津只見史談会)
会長 飯塚 恒夫さん
(坂田)

解説しています。また、会津若松市の会津新選組記念館から借りた史料や長岡藩の藩旗の残片、長岡藩主の家紋が入った幕、長岡藩主の陣羽織なども展示されています。来館者の記念撮影用に継之助の等身大パネル（約156cm）も設置されており、実物と比較することができま。特別展示は11月中旬まで内容を替えながら催す予定です。

今後の記念イベントとしては、9月1日に奥会津戊辰一五〇周年記念特別講演会、同月24日には只見町と長岡市との交流を目的として戊辰史跡を巡る「継之助ウォーク」、10月13日には「長岡市八丁沖ウォーク参加ツアー」などを予定しています。

— 戊辰150周年を機に
未来に伝えたいこと —
「八十里こしぬけ武士の越す峠」。

この句は長岡城の再落城後、八十里越を越える途中で河井継之助が詠んだもの

八十里

こしぬけ武士の

越す峠

監修：奥会津只見戊辰 150 周年記念事業実行委員会

です。戸板に乗せられて会津に敗走する際、「腰抜け」と「越後を抜ける」という2つの意味をかけ、継之助の悲しみが込められた一句です。

それから150年、新潟県と福島県を結ぶ八十里越は今、国道289号八十里越という新たな路として完成を目指しています。歴史的にも八十里越を介し交流のあつた新潟県、現代においても新たな路によって交流が深まろうとしています。

実行委員会の新国勇副会長は「塩沢では今も河井継之助の命日の8月16日に墓前祭を行っています。これは、地元の人々の熱意がないとできないことです。150年を機に、町内に残る戊辰史跡を再発見して郷土の歴史に思いを馳せていただければ」と話しています。このように実行委員会では、知られざる只見の歴史を積極的に発信し、後世に伝えていく取り組みを行っています。



①



②



④

ポンプ車操法の部

- ①火点に向けて放水する1番員
- ②素早く吸管を伸ばす3,4番員
- ③第2線の放水を始める2,3番員
- ④火点に向けて号令を出す指揮者
- ⑤見事な操法を披露した選手



③



⑤

只見町消防団の代表選手が素晴らしい連携・操作を披露!

福島県消防操法南会津地方大会

平成30年度福島県消防操法南会津地方大会は7月8日、南会津町の会津高原だいらスキー場で開催されました。

2年に1度行われるこの大会は、郡内4町村の消防団が消防ポンプなどの機械器具を使用し、消火活動の基本となる「消防操法」の技術とタイムを競い合うもので、只見町の代表選手は5月16日の結団式から35日間練習を重ねてきました。

大会の本番前には、菅家町長や目黒邦友消防団長が「これまでの練習の成果を発揮して、悔いのないよう頑張ってください」と選手に激励を送りました。

大会は、消防車のポンプで行う「ポンプ車操法の部」と、持ち運び可能なポンプを使用する「小型ポンプ操法の部」の2部門で競われ、それぞれ4チームが出場しました。只見町消防団からは、小林の第5分団・第3機動班の代表選手が「ポンプ車操法の部」、大

倉の第6分団・第2班の代表選手が「小型ポンプ操法の部」に出場しました。

只見町消防団の代表選手は、素早い動作と正確な連携操作を披露し、結果は「ポンプ車操法の部」、「小型ポンプ操法の部」の両部門で3位という成績を収めました。ベストを尽くした選手の方々は応援団から大きな拍手が贈られました。

大会に出場された選手の方々は次のとおりです。

「ポンプ車操法の部・3位」

- ▼指揮者 佐藤雅幸 ▼1番員 川原田史紹 ▼2番員 堀金賢二 ▼3番員 角田裕一 ▼4番員 堀金俊也 ▼補充員 児島達志 ▼補欠 角田誠

「小型ポンプ操法の部・3位」

- ▼指揮者 佐藤義樹 ▼1番員 佐藤佑介 ▼2番員 永井晃嗣 ▼3番員 三瓶和人 ▼補充員 三瓶錬 ▼補欠 山内隆行



小型ポンプ操法の部

- ⑥筒先を交代する指揮者と1番員
- ⑦一斉に素早い動作を披露する選手
- ⑧息のあった吸水操作
- ⑨小型ポンプを巧みに操る3番員
- ⑩見事な動作で放水する選手



▲大会に出場した選手の皆さん(上：小型ポンプの部出場選手、下：ポンプ車操法の部出場選手)

選手全員が練習の成果を発揮することができてよかったと感じています。いい選手が集まり、チームとしてベストを尽くすことができ、指揮者としてみんなに感謝したいと思います。

- interview -



小型ポンプの部
指揮者 佐藤 義樹

このメンバーで大会に参加できるのも最後と思い、全力で挑みました。大会では選手全員が全力を出し尽くし、悔いなくできたと感じています。次回またチャンスがあれば挑戦したいと思います。

- interview -



ポンプ車操法の部
指揮者 佐藤 雅幸

美味しいと言われる只見の米を食味分析で数値化

「只見産米・食味向上研究会」が研究結果を報告

7月5日、町内の中小規模農家7名でつくる「只見産米・食味向上研究会(以下、研究会)」の馬場新介会長など4名が役場を訪れ、これまで3年間取り組んできた米の食味向上研究の結果報告書を菅家町長へ提出しました。

この研究会は、国が示してきた米の生産調整が終了することを受け、



▲町長に報告した皆さん(左から馬場正一さん、矢沢達也副会長、菅家町長、馬場新介会長、鈴木忠さん、橋本副町長)

米価下落を心配する農家の耕作意欲増進と米価下落対策を目的に町内の農家などが設立したもので、美味いと評判の只見の米の根拠を調べ、食味向上のための研究を行いました。

研究では、営農方法や他地域との気象条件の比較、町内の農業用水のミネラル検査などを実施し、さらには米の美味さの基準には個人差があるため、食味分析計による食味値をもって効果の確認を行いました。初年度、会員の平均食味値は良質米基準とされる80点であったのに対し、最終年(3年目)には平均食味値が極上米基準とされる85点以上で、最高点の88点が4農家となりました。蒲生地区(標高360m)から坂田地域(標高480m)までを7地域で研究栽培した結果、蒲生・坂田地域でも極上米の数値が示されました。

研究結果の報告で、馬場新介会長は「農家の生き残りを考え只見のブランドに取り組みました」と菅家町長に話しました。

今回の報告書は町内の方限定で提供するとしており、必要な方は農林建設課農林係(82-5230)までお問合せください。

JR只見線復旧費の地元負担軽減

鉄道軌道整備法改正で報告会

7月21日、只見線の復旧及び復興を支援する会が主催する改正鉄道軌道整備法の報告会がJR只見駅前で開催されました。

これは、6月15日の参院本会議で可決成立となった改正法について地域住民などに報告するもので、赤字ローカル線の災害復旧等を支援する議員連盟会長の佐藤信秋衆院議員や同連盟事務局長の菅家一郎衆院議員、根本匠衆院議員などが参加しました。

報告会では、菅家氏が「今後は只見線をどう活かすかが重要」と話し、同支援をする会の目黒彰一会長や菅家町長がお礼の言葉を述べました。



▲会場に集まった約200名を前に改正法について説明する菅家一郎衆院議員

安全運転を呼びかける

交通安全テント村を実施

7月23・24日の2日間、町内を走行する車やバイクなどのドライバーに安全運転を呼びかける「交通安全テント村」が3地区で行われ、各地区の交通安全団や交通安全母の会、交通安全協会などが参加しました。これは、夏の交通事故防止県民総ぐるみ運動の一環で行われているもので、只見地区は只見ガスセンター前、朝日地区は広域消防署前、明和地区はスノーেশション付近で実施しました。

各会場では、交通安全団がドライバーの方にチラシや折り鶴がついた手作りのキーホルダーを手渡し、安全運転を呼びかけていました。



▲(写真/只見地区)安全運転を呼びかける交通安全団の皆さん

「地域合同防災訓練」を開催

自助・共助・公助の意識を高める



▲AEDの説明を受ける只見中の生徒(当日は星総合病院・ボラリス看護学院の生徒も参加した防災訓練)

7月4日、朝日小と只見中が主催の「地域合同防災訓練」が行われ、同学校や地域住民など256名が参加しました。この訓練は、平成23年7月の新潟・福島豪雨災害を教訓に大雨を想定して行われているもので、今年で開催3年目となります。訓練では、只見中への避難放送を受けた参加者が自宅や朝日小から一斉に非難し、中学生在避難所への誘導を行いました。避難後は広域消防署只見出張所や駐在所、町赤十字奉仕団などの協力のもと、炊き出し訓練や救急処置訓練など5つの体験を行い、参加者は防災意識を高めていました。

JR只見線や町の魅力を語る

六角精児さんが只見中学校訪問



▲最後に自身が作詞・作曲された「只見線のうた」を生徒などと一緒に熱唱する六角さん

7月10日、鉄道ファンとして知られる俳優の六角精児さんが只見中学校を訪れ、復旧中のJR只見線や町の魅力などについて講演しました。講演の前に横山泰久校長が「六角さんは只見線や只見町が大好きです。皆さんも六角さんの話を聞いて只見愛を感じてください」と話しました。生徒や住民など約100名を前に六角さんは、JR只見線の車窓の美しさや只見町を毎年訪れていることなどを紹介され、「只見線の魅力は集約された自然美。只見から社会に旅立つ君たちは幸せ」と只見愛について語りかけていました。

社会を明るくする運動住民集会

犯罪や非行のない地域を目指す



▲振り込め詐欺の被害を防ぐためには地域の方々の力が必要と話す玉川係長

7月13日、犯罪や非行の防止と犯罪をした人たちの更生について理解を深める「第68回社会を明るくする運動住民集会」が季の郷湯里で開かれ、保護司や教育関係者など約60名が参加しました。これは、年一回南会津郡内持ち回りで開催するもので、今回は只見町を会場に開催されました。集会では、営家町長と大山義幸南会津地区保護司会長が「安全・安心な地域づくりのため皆さまのご協力をお願いします」とあいさつし、記念講演では南会津警察署生活安全係の玉川勝秋係長が振り込め詐欺の被害状況や手口などを紹介しました。

「いじめ問題対策連絡協議会」開催

いじめ防止を考える



▲いじめ防止のために意見を出し合う委員の皆さん

7月19日、只見町いじめ問題対策連絡協議会が只見振興センターで開催されました。この会議は、いじめ防止対策推進法に基づき設置されるもので、学校関係者など11名の委員で構成されています。会議では、町や各学校のいじめ防止基本方針について確認し、いじめ防止のために大切なことは、学校と保護者の情報の共有、子どもの発達段階に応じて相手の気持ちを考える力や人間関係を調整する力を育成することなどの意見が出されました。各学校や関係機関と連携・協力し、いじめ防止に努めていくことが確認されました。

ねっか発売一周年とIWSC焼酎部門2年連続受賞を祝う 「2018ねっか祭り」開催！

7月28日、発売一周年を迎えた米焼酎ねっかの感謝祭「2018ねっか祭り」が季の郷湯ら里で開催され、町内外から約140名が参加しました。

はじめに、合同会社ねっかの協坂齊弘代表が「今年24日に発表されたインターナショナル・ワイン&スピリッツ・コンペティション(IWSC)の焼酎部門で2年連続の銀賞を受賞することができた。『ばがねっか』も初出品し、銀賞を獲ることができた。来年は金メダルを目指したい。また、今日はねっか発売一周年を祝う祭り。ねっかの楽しい飲み方もあるのでぜひ味わってほしい」とあいさつしました。続いて菅家町長が祝辞

を述べ、星公正県会議員の音頭で乾杯しました。会場では、郡山市にあるバー・オクムラの「ねっかカクテル」や会津若松市のNPO法人素材広場がねっかをベースにした「福島フルーツハイ」が味わえ、参加者は銀賞を受賞したねっかの味と、カクテルやフルーツハイといった新しい飲み方を楽しんでいました。



▲2年連続銀賞の受賞報告とねっか発売一周年のあいさつをする合同会社ねっかの皆さん

身近な野草や木の実で野草茶とデザートを作る ノラサン「野草教室」を開催！



▲町の地域づくり交付金事業を活用して開催された野草教室

7月7日、野草で健康づくりを推進する団体ノラサンの野草教室が只見振興センターで開かれました。今回は、「体に合わせた野草茶と飲み方」と題し、漢方薬局薬剤師の貝津好孝先生を講師に迎えて開かれた野草教室と、「野草や木の実を使ったデザート作り」をテーマに、米粉のおやつ菓子工房shucre(シュクレ)の江黒由佳さんを講師に迎えた料理教室の2部構成で実施されました。野草教室では参加者20名が野草茶について学び、料理教室では桑の葉入りカップケーキやスカッチョジャム入りパンナコッタづくりを学びました。

只見高校生が海外に短期留学 役場で出発式を開催

7月24日、町と只見高校の連携事業「短期海外留学制度」を活用してシンガポールへ留学する只見高校2年生の加瀬龍光さん、小室幸子さん、原田泰知さん、目黒柚季さんの4名が役場を訪れ、菅家町長に出発の報告をしました。菅家町長は「この留学を将来の夢に結び付けられるよう頑張ってください」と励まし、生徒たちは英語で「文化の違いを学びたい」「英会話の技術を伸ばしたい」など抱負や将来の夢などを語りました。



▲菅家町長(中央)に報告した小室さん(左上)、目黒さん(右上)、原田さん(左下)、加瀬さん(右下)

地域住民の人権を守る

人権擁護委員に鈴木美穂さん(只見)

前任者である鈴木厚さん(只見)の任期満了に伴い、平成30年7月1日付けで、鈴木美穂さん(只見)が法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。人権擁護委員は、人権相談会の開催や人権に関する啓発活動を行うなど、日々の問題解決に向けて取り組む民間のボランティアです。今後は只見町担当として、渡部等さん(小川)、目黒香都子さん(坂田)と一緒に活動されます。



▲7月1日より人権擁護委員になった鈴木美穂さん



▲上/日大東北戦で先取点をあげタッチする選手
下/マウンドに集まり笑顔を交わす選手

第100回全国高校野球選手権福島大会 只見高校が夏2勝を挙げる!

第100回を迎えた全国高校野球選手権福島大会が7月7日に開幕し、部員12名で挑んだ只見高校野球部が福島南高校と塙工業高校を下し、夏2勝という結果を残しました。

7月8日の初戦、福島南戦では7回まで両チーム無得点で試合が進み、8回に只見の集中打で一挙4点を奪い、結果4-1で勝利しました。続いての2回戦(10日)塙工戦では投打がかみ合い、見事8-0で7回コールド勝ちを取めました。先発の松本陵汰投手は、7回参考記録で無安打無得点という見事な投球を披露しました。3回戦(15日)の日大東北戦では、初回に先制し、以降もチャンスをつくるものの追加点が奪えず、結果1-11の5回コールド負けとなりました。

試合後、球場にいる只見町応援団から温かい拍手が贈られ、選手の素晴らしいプレーを称えていました。

只見町ブナセンター

講座「工芸－自然と人をつなぐものづくり」開催

7月1日、「工芸－自然と人をつなぐものづくり」と題したブナセンター講座が同施設で開かれ、町内外から29名が参加しました。講師に美術・工芸を専門とする県立博物館専門学芸員の小林めぐみ氏を迎え、県内の工芸や漆掻き(ウルシの樹液採取)についての紹介を中心に、工芸を通じた自然と人との関わりについて講演されました。自然の恵みを活かしながら、冬の間に手仕事をする只見地域の伝統的な生活・文化の重要性や同施設で開催中の企画展「只見の手工芸」についても解説され、参加者は伝統工芸や自然の大切さについて理解を深めていました。



▲工芸を通じた自然と人との関係を説明する小林学芸員

只見高校生が町内企業の技術と魅力に触れる 誘致企業などで「就職相談会」開催

7月27日、町内誘致企業4社(株)会津工場、(株)ヒロタテクノ、(株)スミタフォニクス、(株)リード)と町が連携して行う「只見町就職相談会」が開かれ、就職希望や将来の進路について考える只見高校3年生5名が参加しました。この相談会は、地元高校生に町内企業の技術や魅力などを発信し、町内就職希望者を増やしていくことを目的に行われているもので、町内誘致企業4社と役場を見学しました。各企業を訪問して行われた相談会では、会社説明や工場見学などが行われ、生徒たちはその企業の魅力などに触れていました。相談会に参加した生徒たちからは「町内企業の高い技術を知ることができてよかった」「製造業の魅力を知り、興味を持つことができた」などの声が聞かれました。



▲(株)ヒロタテクノの製造工場を見学する生徒の皆さん

八十里越が結ぶ新潟の児童との絆 町内3小学校合同で「宿泊学習」を実施



▲手作りの名刺を交換する児童

6月29～30日にかけて、只見・朝日・明和の3小学校合同による宿泊学習が行われました。これは、只見町が推進する「海洋教育」の一環で行われたもので、各小学校の5年生28名が参加しました。

宿泊学習は、八十里越の工事区間の見学や新潟県三条市の下田地区の小学校との交流、新潟県少年自然の家での釣りやカヌーといった内容で実施されました。三条市の森町小学校で開かれた交流会では、同市下田地区5校の児童70名と一緒に、それぞれの地域の紹介や手作りの名刺交換、レクリエーションなどを行い、両市町を結ぶ八十里越が児童の交流を深めました。

只見町観光まちづくり協会の酒井治子さんが 県のコーディネーターに委嘱

7月30日、福島県から只見線地域コーディネーターに委嘱された(一社)只見町観光まちづくり協会の酒井治子さんが役場を訪れ、橋本副町長に委嘱の報告をしました。

このコーディネーターは、JR只見線の利活用促進に取り組む沿線地域住民と連携を図り、企画列車や体験ツアーの際に地元との調整などを行います。また、只見線ガイドブックを制作し観光資源の活用などに取り組みます。

報告に訪れた酒井さんは「只見線の利活用に向けて応援してほしい」と話しました。



▲副町長(中右)に報告した酒井さん(中左)と同席した目黒長一郎会長(右)と渡部理一事務局長(左)

国道252号六十里越雪わり街道 清掃ボランティアで景観守る

7月19日、只見町と新潟県魚沼市の「国道252号六十里越雪わり街道を愛する会」が主催する清掃ボランティア活動が同街道で行われました。

これは、同街道の景観を守るために毎年行っているもので、参加者約90名は道路沿いに捨てられた弁当の容器やたばこの吸い殻などを回収しました。清掃後、アイヨシの滝で開かれた交流会では、冷汁やおにぎりが振る舞われ、参加者同士懇親を深めていました。



▲清掃ボランティアに参加した只見町・魚沼市の皆さん

プールの事故から子どもを守る 「応急手当講習会」を開催

7月10日、南会津広域消防署只見出張所の職員を講師に「応急手当講習会」が只見振興センターで開催され、町内の小中学校の保護者や教職員30名が参加しました。

この講習会は、プールで事故が発生した際に最善の応急処置が施せるよう毎年開催しているもので、当日は心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの使い方などを学びました。受講者は、応急処置の基本などについて理解を深めました。



▲応急処置の基本について消防職員から指導を受ける参加者の皆さん

新体制での決意新たに 只見町文化協会の新役員就任!

7月27日、只見町文化協会の佐藤孝義副会長の案内で新しく役員となった齋藤修一会長と馬場永好事務局長が役場を訪れ、就任のあいさつを行いました。文化協会は芸術文化に関する事業を中心に活動をしており、今年の5月31日の総会で2年に1度の役員改選がありました。就任あいさつでは、齋藤修一新会長が「皆さまのご協力をお願いしたい」と話し、新体制での決意を新たにしました。



▲新国総務課長(中左)に挨拶をした文化協会の皆さん(左から佐藤副会長、齋藤会長、馬場事務局長)

お笑い芸人と町内児童が只見線などをPR 撮影でひよっこりはんさんが来町

只見線と奥会津の魅力を発信する県の事業「奥会津PR動画・ひよっこり只見線」の撮影が7月27日、JR只見駅付近で行われました。この動画は、よしもと芸人のひよっこりはんさんが只見線に乗りし、自身のネタを使って奥会津・只見線の魅力を紹介していくもので、撮影当日は町内の児童36名も一緒に参加しました。児童たちは緊張しながらも、一生懸命撮影に挑んでいました。



▲撮影でひよっこりはんさんと一緒に手を振る児童の皆さん

広報ただみ診療所

朝日診療所
医師 山内 健士郎



「十分な対策をして熱中症ゼロを目指しましょう」

みなさんこんにちは。朝日診療所の山内です。毎日暑い日が続きますが、元気にお過ごしでしょうか。只見町でも最高気温が連日30℃を超えるなか、日中の長時間の畑仕事やクーラーのない部屋で過ごされる方も多く、熱中症になる方が増えております。熱中症は命に関わる怖いものですが、注意すれば必ず防げるものでもあります。

若年から中年者はスポーツや屋外での作業中に発生することが多い一方、お年寄りは屋内発生が多いです。熱中症の65歳以上の割合は45%以上、死亡者では80%以上にもなるため、お年寄りは特に要注意です。

対策として最も重要なのは、十分な塩分と水分の摂取です。オーエスワン、スポーツ飲料などはもちろん、梅昆布茶や味噌汁なども有効です。お年寄りは夏場には特に脱水症になりやすく、自分で気づきにくいことも多いです。さらにお茶など

塩分が少ない嗜好があり、自分では水分補給をしているつもりでも結果的に塩分を十分とれていない場合もあり、オーエスワンなどを定時に飲むような習慣をつけることも大事です。むせりやすい方にはゼリータイプもあります。

もし、足をつる、汗を大量にかく、もしくはかかない、ぼんやりしているなどいつもと違う様子だったらすぐに涼しい場所に移動し、スポーツ飲料などを摂取してください。自分だけでなく、家族・隣人同士で注意しあって、もし改善しない場合はすぐに診療所に受診し、適切な治療を受けてください。また、熱中症の発生には気温、湿度、日射などを考慮した「暑さ指数」が環境省のホームページで公表されており、海外でも広く熱中症対策として利用されておりますので参考にしてください。お互いに気をつけてこの酷暑を乗り切りましょう。

地域おこし協力隊として 只見町教育振興協力隊 vol.45 渡辺 史



「猛暑」

只見町に来て2度目の夏を迎えました。豪雨や猛暑が続く、大変な思いをされている方が大勢いらっしゃる中、穏やかに生活できる日々感謝せずにはいられない毎日です。

さて、今夏の日本は異常な猛暑に見舞われています。しかし、この猛暑が消費を押し上げ、プラスの経済効果をもたらしていることにお気づきでしょうか？エアコン関連・清涼飲料水・アイスなどの冷菓・ビール・虫よけや日焼け止めなどの製造企業は、猛暑の年は業績が好調になります。また製造業だけにとどまらず、商品ラベルを製造する

企業や、出荷の際に梱包するための段ボールのメーカーなど、猛暑のおかげ(?)でいい思いをする人達がたくさん存在するのです(猛暑のせいでもない事になる人たちも存在するわけですが)。そう考えると、この猛暑が一概に悪いとも言えないですね。なんとも難しいところです。

とはいえこんな暑い中、学校終わりに塾に来て勉強してくれる生徒がたくさんいることは本当に嬉しい限りです。塾はいつでも涼しくして皆さんを待っています。最近は只見振興センターで開塾していることもありますので、町民の皆さまも生徒たちの頑張る姿をどうぞ見にいらして下さいね！

只見 ぜんめえ物語 ④

— 胞子からのぜんまい栽培に挑む —

昭和五〇年代、只見町におけるぜんまい栽培は、山に自生しているぜんまいのカブツ(株)を掘り取って来て畑に移植するというやり方で始まりました。そして、昭和六〇年代になると栽培の先進地・叶津地区では、ぜんまい畑はもはや珍しいものではなくなっていました。しかし、こうしたぜん

まい栽培は、岩場のすべりやすいところに自生しているものを唐鍬(とうくわ)で掘り取るものですから、とても危険を伴う作業となります。細いぜんまいのカブツなら山の低いところでも採れますが、太いぜんまいのカブツともなれば高くても急勾配の山にまで出かけなければ採れません。また、みんなが山の



▲ぜんまいの胞子を植木鉢のミズゴケ上に
蒔く長谷部保信さん(イラスト・筆者)

ぜんまいのカブツを大量にとってきたのでは、山が荒れてしまうと懸念の声もささやかれ、栽培に頼らず山のぜんまい採りに専念する人たちとの対立も心配されました。こうした折、今は亡き叶津の長谷部保信さん(昭和三年生まれ)は、胞子からのぜんまい栽培はできないものかと考え、昭和六一年ころから独り研究に取り組みました。この研究がうまくいけば、山に行けない人でも栽培ができるようになるし、数ヘクタールのぜんまい栽培も可能となり、只見のぜんまい栽培が新たに農業の一翼を担うことができるという希望もありました。保信さんが実践した胞子栽培の手順について、陰で研究を支えた妻のイネさん(昭和一二年生まれ)から伺った話を紹介します。

まず、山から大きく成長した雄ぜんまいを採って来る。風が当たると胞子は飛散してしまうので、座敷に新聞を広げ、その上に並べて陰干しする。乾燥すると抹茶を数倍細かくしたような胞子が新聞の上に落ちるのでそれを採取する。次に、ミズゴケを植木鉢に置き水を十分吸わせた後、その上から胞子を蒔く。その年の秋になるとミズゴケの上に苔のような姿を現す。二年目になると双葉のような小さな葉をつけるとともに縫物針のようなぜんまいが顔を出す。ここで鮮魚入れに使われる発泡スチロールの苗床にミズゴケを張り、そこへピンセットを使って一本ずつ丁寧に植え替える。その一年後、苗の高さは五センチから一〇センチに生長する。その苗をまばらに杉が生えるような畑に仮定植する。仮定植されたぜんまい苗は年を追うごとに勢いを増して成長する。胞子を蒔いてから四年目になると、苗の高さは三〇センチほどになり、ここでやっと畑に定植することが可能となる。当時、保信さんとイネさんは畑から田んぼ、そして、山にまでこの苗を植えたといいます。そして、定植から六年後(胞子を蒔いてから一〇年後)の春、やっと太いぜんまい

が出てくる。ここで最初の収穫が行われます。

保信さんの研究は、労務管理にも及んでいます。集落周辺の平地にばかり多くのぜんまい畑を作ってしまうと、同時期に一斉にぜんまいが出る。そのため、ぜんまい採集と乾燥作業がともぎつくなると予想し、標高別に三段階に栽培地を準備したのです。つまり、標高一〇〇メートル毎に三カ所に栽培地を分散させました。すると、収穫期間が六〇日間程度可能となり、作業にゆとりが生まれました。

研究を始めてから一〇数年が経ったころ、各地から多くの見学者が保信さんの農園を訪れて来るようになりました。しかし、胞子蒔きから一〇年間辛抱しないと収穫にはたどり着くことができなると聞かや、皆あきらめた顔をして帰って行ったとイネさんは当時の様子を振り返ります。

現在、保信さんの研究を受け継ぐ人や機関は見当たりません。でも、彼が手がけた胞子栽培によるぜんまい畑は今も現役で、春になると太いぜんまいをしっかりと出してきました。

町民文芸



只見短歌会

六月詠草

大塚栄一

指導

体調のみだれいささか気にしつつはや芽の出でしかと畑をめぐりぬ

馬場 八智

関谷登美子

詠みたきと思ふ事など数あれど家事雑用に今日も暮れゆく

目黒 富子

草とれば支えになりていたらしき倒れそうなる花に土寄す

新国由紀子

年の瀬に求めし白のシクラメン梅雨の窓辺に咲き揃ひをり

渡部ゆき子

畑はたに出て卒寿も近くば耳遠く互いに友らと手招き憩ふ

飯島小百合

帰宅後にポストをみれば葉書あり懐かしき字について類緩む

渡部ヨリ子

忘れな草の咲き乱れある飼猫の墓辺にしばし足を留めぬ

新国 洋子

誕生日に同居の姪が買ひくれし鉢植ゑのつつじ紫の濃し

(出詠順)

只見俳句会

七月例会

目黒十一

指導

夏帯や妣おば思んで濃い茶のむ
芍薬の一重と八重をもらい受け

味代子

瑠璃トカゲ目映い疾さ藪に消え
黄の嘴並べ思案の燕の子

幸生

柳絮とぶ幾星霜や塩の道
春風や茶屋の鶏舎に聞の声

礼

トンボとり子らの歓声今はなし
夏山や花に癒され縦走路

信

冷やされし茶碗蒸し受く人心
芯強し美しき人糸とんぼ

一穂

夏の夜や学童音読高々と
寝つかれぬ夜の長さや青葉木菟

都

雷鳴の一撃受けし村縮む
不揃いのとうもろこしや土寄せる

修一

行合の空に影引く鬼やんま
いびりをも懐かしみつつ墓洗う

吉児



今月のお知らせ

電話番号

総務課	
総務係 財政係	☎82-5210
地域創生課	
創生企画係 広報広聴係	
ユネスコエコパーク推進係	☎82-5220
町民生活課	
税務係	☎82-5110
町民係	☎82-5100
保健福祉課	
保健係	☎84-7005
福祉係	☎84-7010
農林建設課	
農林係	☎82-5230
建設係	☎82-5270
観光商工課	
観光係 商工係	☎82-5240
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所	☎84-2221
(歯科)	☎84-2612
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

試験

社会福祉法人南会津会 職員採用候補者試験

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等を運営する社会福祉法人南会津会では、職員採用候補者試験を次により行います。

●採用予定職種・採用予定人員

- ①看護職員 4名
- ②介護職員 5名
- ③事務員 若干名

●採用予定年月日
平成31年4月1日

●職務内容

- ①看護職員Ⅱ診療の補助、看護、健康管理、保健衛生等の業務
- ※勤務は交替制(夜勤有り)
- ②介護職員Ⅱ利用者の食事・入浴・排せつ介護等の業務
- ※勤務は交替制(夜勤有り)

※勤務は交替制(夜勤有り)

③事務員Ⅱ事務に関する業務

●受験資格(次に該当する者)

①普通自動車一種免許取得者又

は、平成31年3月31日までに取得見込みの者

②【看護職員・介護職員】

平成31年4月1日現在
60歳未満の者

【事務員】

平成31年4月1日現在
50歳未満の者

③次の資格を有する者

- ・看護職員は、保健師助産師看護師法に定める看護師免許又は准看護師免許の取得者(看護師養成施設又は准看護師養成施設を平成31年3月までに卒業する資格取得見込者を含む)
- ・介護職員及び事務員は、特に資格要件はありません。

※次の該当者は受験できません。

- ・日本の国籍を有しない者
- ・禁固以上の刑に処せられた者

●試験の方法・日時・場所

▽1次試験

一般教養試験(高校卒程度)
日時/9月16日(日)
午前10時受付

場所/南会津町田島あたご館
(旧田島町中央公民館)

▽2次試験(1次試験合格者)

作文試験・面接試験
期日/10月21日(日)
場所/南会津町田島あたご館

●試験結果の発表

1次試験の結果は、10月上旬に本人に通知します。

●受験申込手続について

当法人の施設などで交付する申込み用紙に必要事項を記入し、6ヶ月以内に撮影した本人の写真を貼り、受験資格を確認するため、受験申込用紙に資格を証する免許証などの写しを添付して、南会津会本部事務局(特別養護老人ホーム田島ホーム内)に提出して下さい。

※申込用紙は、南会津会の本部事務局または各施設で交付します。

(郵送による請求もできます。詳しくはお問合せ下さい。)

●申込受付期間

8月1日(水)~24日(金)
※執務時間中に限ります。郵送など

による申込用紙提出は、8月22日(水)までの消印のあるものに限って受け付けます。

●申込用紙の交付先

▽南会津会本部事務局

「特別養護老人ホーム田島ホーム内」
(南会津町永田字風下3-1)
☎0241(63)1118

▽只見ホーム
(只見町大字長浜字久保田1)
☎0241(84)7550

▽あさくさホーム
(只見町大字長浜字久保田11)
☎0241(84)7110

▽こぶし苑
(只見町大字長浜字唱平31)
☎0241(84)2101

●問合せ先
南会津会本部事務局
☎0241(63)1118



税 今月の納期

8月27日までに
納めましょう

- 町民税(2期)
- 国民健康保険税(2期)
- 農集排使用料(8月分)
- 介護保険料(2期)
- 後期高齢者保険料(1期)

お知らせ

原子力損害賠償 個別相談のご案内

福島県では、県弁護士会及び県不動産鑑定士協会と連携し、弁護士及び不動産鑑定士による対面の相談を次のとおり実施します。相談料は無料ですので、お気軽にご相談ください。

●南会津エリア巡回法律相談日

・とき

9月5日(水)
午後1時~午後4時30分

・ところ

県南会津合同庁舎
4階会議室
(南会津町田島)

字根小屋甲4277-1

●申込方法(事前予約制)

事前予約受付番号

☎0241-5211-8216

※弁護士、不動産鑑定士への相談時間は30分となります。

新しい仲間が加わりました

7月より、只見町の教育振興を推進するために、新たに1名の地域おこし協力隊が「奥会津・只見教育振興協力隊」として加わりました。主な業務は公営塾運営・講師を担当し、町の教育委員会の勤務となります。

これで、町内で活動する協力隊は全体で7名となり、そのうち観光分野が3名、教育分野が4名となります。



はまつ こうや
浜津 航矢さん(22歳)

出身地/宮崎県延岡市生まれ
神奈川県横浜市育ち
大 学/法政大学法学部法律学科
趣 味/バスケットボール、
筋トレ、カラオケ

-メッセージ-

初めまして、このたび協力隊として公営塾講師をすることになった浜津航矢です。私がここに来た理由は、大学で勉強の素晴らしさに気づいてから、このことを共有して実践できる環境を求めていたからです。一人一人と深く関わっていけるこの只見町で私自身多くのことを学び、共に実践していけたらと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

第71回 県民スポーツ大会 只見町予選
明和ソフトボールクラブが優勝!

7月29日、「県民スポーツ大会」壮年ソフトボール競技の只見町予選が町下グラウンドで行われ、明和ソフトボールクラブが見事優勝を飾りました。壮年ソフトのチームは主に40歳以上のメンバーで構成されており、只見・朝日・明和の3チームが出場しました。大会は、2勝を挙げた明和が見事優勝を飾り、朝日が準優勝、3位が只見という結果となりました。明和チーム・朝日チームは8月26日に南会津町で行われる南会津大会に出場します。



▲優勝を飾った明和チームの選手の皆さん

町長スケジュール
(7月分)

- 2日 国道289号線建設期成同盟会会長・副会長会議 (東京都)
- 3日 辞令交付式、町内企業意見交換会、只見ユネスコエコパーク連絡調整会議、消防操法競技大会出場選手激励
- 4日 只見町職員互助会理事会、只見ユネスコエコパーク推進協議会
- 5日 農家との懇談会、JR経営企画部次長着任挨拶、只見町土地改良区理事会・総会
- 6日 南会津地方町村議会議員大会
- 8日 福島県消防操法南会津地方大会(南会津町)
- 9日 福島県町村長交流会・中央研修会(～10日東京都)
- 11日 JR東日本郡山土木技術センター所長来庁、只見町議会7月会議、南会津地区山岳遭難対策協議会監査

- 12日 只見・金山・昭和省道改修促進期成同盟会福島県要望(南会津町・福島市)
- 13日 「社会を明るくする運動」住民集会、定例庁議
- 14日 只見線なんとか会納涼会
- 17日 国道289号線建設期成同盟会総会及び事業説明会・中央要望会(東京都)
- 21日 只見線応援ツアーにおけるセレモニー
- 24日 南会津建設事務所長来庁、阿賀川河川事務所長来庁、只見高等学校海外短期留学出発報告式
- 28日 ねっか祭り
- 30日 只見町議会7月第2回会議
- 31日 国道289号八十里越地点開発促進期成同盟会総会及び事業概要説明会(三条市)

町民の消息

(6月26日～7月25日届出分) 敬称略

■お誕生おめでとうございます

佐藤 蒼乃佑 (男/佑介・麻美) 大倉

■おくやみ申し上げます

長谷部 多一	75歳	只見
田村 ハル工	97歳	塩沢
三瓶 ケイ	88歳	長浜
八久保 康一	84歳	黒谷
河原田 トミエ	94歳	長浜
横田 モト工	91歳	長浜

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成30年7月1日現在

人口	4,266 (-1)
男	2,100 (+2)
女	2,166 (-3)
世帯数	1,866 (+2)
高齢化率	45.44%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 6 転出 6 出生 2 死亡 3

あとがき

▽7月の只見町は、本当に暑い日が毎日続きました。7月30日には、只見町における7月の観測史上で今年最高気温となる36.2度を記録したと新聞で報じられていました。まさに酷暑。とある作業現場では、高所作業用の足場を運動シューズで作業をしていたら靴底がとけてしまったそうです。

▽そんな中、7月28～29日にJR只見線特別列車のおもてなしイベントとして、瀧神社前を流れる只見用水に足を付けて涼むイベントが行われていました。夏でも冷たい只見用水が乗客たちのクールスポットになっていました。

(三瓶)

生涯学習サポーター
五十嵐 愛

只見振興センター
図書室 ☎82-2141

おすすめ新着図書

★新しいキャンプの教科書



STEP CAMP/監修
(池田書店)

この夏、家族や友人とキャンプの計画を立てている方ではないでしょうか？この本にはアウトドアの基礎知識と自然の中で快適に

過ごすためのアイデアが詰まっています。外ではいつものように電気やガスが使えず、不便なことが多いです。しかしその不便さこそを楽しみ、家族や仲間と行う共同作業を楽しむことがキャンプの醍醐味だと本書では語っています。

テント選びから道具、服装選び、火おこしの仕方、野外料理のレシピ、おすすめのキャンプ場などありとあらゆる情報が掲載されています。

「キャンプ好きのオジさんたち」(本書より)が作った教科書を持ってキャンプに出掛けてみませんか？

★終わった人



内館牧子/著(講談社)

「定年で生前葬だな。」そんな言葉から始まるこの小説は、大手銀行の出世コースから子会社に出向、転籍させられ、そのまま定年を迎えた男の物語。仕事一筋だった彼は途方に暮れるが、生き甲斐を求めてさまよい、あがき続ける。主人公に再生の時は訪れるのか？ある人物との出会いがきっかけとなり彼の運命の歯車は回り始める。

衝撃的な書き出し文とは裏腹に、笑って泣ける「定年コメディ」小説です。

★その他にも図書コーナーにはたくさんの本が置いてあります。リクエストも随時受け付けていますので、ぜひご利用ください。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

カジカ(陸封型)

(学名: *Cottus pollux*)

[カサゴ目 カジカ科]



▲町指定貴重野生動植物に指定されているカジカ

カジカは日本にだけ生息する固有種です。また、生活型の違いにより一生を川で過ごす陸封型と海に降りる回遊型に分けられます。只見町に生息しているカジカは陸封型で、全長は13cmほどに成長し、回遊型に比べて卵が大きいことから大卵型ともよばれます。

山間地域にある只見町では、川魚は貴重なタンパク源であり、様々な漁法で川魚を捕獲し食してきました。カジカもその一つであり「カジッカ」と呼ばれ、特に子どもの夏の川遊びとしてカジカ突きが親しまれてきました。また、ドウや四つ手網を使ったカジカ漁も行われました。捕獲したカジカは、焼いて食べるほか飯鮓にも使われてきました。

一時は水質汚濁や河川改修などで数を減らした時期もありましたが、現在、個体数も回復し、町内全域の河川に生息することが確認されています。水質の良好な河川に生息するため自然度の高い河川環境が必要であり、全国的には環境省レッドリストの準絶滅危惧種、福島県レッドリストの絶滅危惧ⅠB類に指定されています。只見町でも「只見町の野生動植物を保護する条例」に基づき町指定貴重野生動植物に指定されています。人と自然とが共生するモデル地域であるユネスコエコパークの町を象徴するカジカの個体群と生息環境の保護・保全が求められます。

企画展

「只見の古民家は何の木でつくられているのか？

—その建築様式と使用木材種—

詳しくは、
只見町プラセンター
までお問い合わせ
ください

期 間:8月11日(土)~10月31日(水)

場 所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー